带状疱疹ワクチン予防接種について

各ワクチンの特徴・接種を受けられない方

ワクチンの種類	ワクチンの特徴	接種を受けられない方
生ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・発症予防効果が中程度：発症予防効果は 50～59 歳で 69.8%、60 歳以上の方で 51.3% ・带状疱疹後神経痛の予防効果が中程度：60 歳以上での带状疱疹後神経痛予防効果は 66.5% ・長期予防効果が低い：ワクチン接種後の予防・効果は、1 年目では 67.5%、2 年目には 47.2%、8 年目には 31.8%まで低下 ・副反応の発現率が低い ・基礎疾患等により打てない場合がある ・接種費用が安価で、1 回接種のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学療法やステロイドなど免疫を抑える治療をしている方 ・免疫力が落ちている方（HIV 感染等） ・妊娠していることが明らかな方 ・水痘ワクチンによる強いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがある方 ・カナマイシン、エリスロマイシンの抗生剤にアレルギー反応を起こしたことがある方 ・明らかな発熱（通常 37.5℃以上）がある方や急性疾患にかかっている方
不活化ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・発症予防効果が非常に高い：発症予防効果は 50 歳以上で 97%、70 歳以上で 91% ・带状疱疹後神経痛の予防効果が非常に高い：70 歳以上での神経痛予防効果は 85.5% ・発症を長期に予防する：50 歳以上の成人試験で、10 年以上は 80%を超える有効性 ・副反応の発現率が高い：注射部位の腫れや赤み、発熱や頭痛などの発現頻度が多い ・接種費用が高価で 2 回接種（接種間隔：2 か月から 6 か月）が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・带状疱疹ワクチンによる強いアレルギー症状を起こしたことがある方 ・明らかな発熱（通常 37.5℃以上）がある方や急性疾患にかかっている

ワクチンの副反応

副反応の発生頻度	生ワクチンの副反応	不活化ワクチンの副反応
10%以上	赤みや腫れ、硬結等の注射部位反応、熱感	疼痛・赤み・腫れ、吐き気・下痢・腹痛、頭痛、筋肉痛、疲労感、悪寒・発熱
1%～10%未満	発疹、倦怠感	そう痒感、熱感、倦怠感
1%未満	紅斑、そう痒、関節痛、筋骨格痛、動悸、疼痛	めまい、鼻咽頭炎、関節痛・背部痛、無力症など

出典：生ワクチン、不活化ワクチン添付文書及び製薬会社出版物 荒川区ホームページより

2025 年 4 月作成